

臓器提供側医療者への啓発に関する研究

研究分担者 渥美 生弘 聖隷浜松病院 救命救急センター長

研究協力者 山本 小奈美 山口大学大学院医学研究科保健学専攻臨床看護学講座 助教

研究要旨：

令和3年度に行われた世論調査によると、脳死下または心停止後における臓器提供の意思に関しては、39.5%が提供したいと答えている。一方で、臓器提供が可能な脳死患者は、少なくとも年間2,000例は発生していると推定されており、その約40%が臓器提供の意思があったとしたら約800例の臓器提供が見込まれる。しかし、実際には100例前後に留まっているのが現状であり、患者の意思が救急医療の現場で把握できていない可能性がある。

患者の意思を把握できていない原因は、提供病院における業務上の負担や、精神的な負担があげられ提供体制整備やマニュアル作成などの対策がすすめられてきた。近年は臓器提供を繰り返し行う施設が散見され、医療者が患者家族からの感謝や、チーム医療における達成感、満足感などから臓器提供を前向きに捉えている可能性がある。

本研究では複数の臓器提供を経験している施設の医療者を対象に、フォーカスグループインタビューを行っている。全部で10施設のインタビューを予定しているが、今年度は7施設のインタビューを行った。インタビューを実際に行った印象からは、各施設の医療スタッフが臓器提供を前向きに捉え、患者家族の思いを中心に関わっている様子が感じられた。7施設のインタビュー終了後に、逐語録の質的分析を開始、残り3施設のインタビュー前に情報の不足がないか確認することとした。また、解析のモデルを選定し論理的に解析を進めるべく検討を行った。

本邦で臓器提供を経験した医療者の満足感や達成感に関する報告は少ない。逐語録の解析結果が、臓器提供に関わるスタッフを後押しする資料となることを期待している。

A. 研究目的

令和3年度に行われた世論調査によると、脳死下または心停止後における臓器提供の意思に関しては、39.5%が提供したいと答えている。一方で、臓器提供が可能な脳死患者は、少なくとも年間2,000例は発生していると推定されており、その約40%が臓器提供の意思があったとしたら約800例の臓器提供が見込まれる。しかし、実際には100例前後に留まっているのが現状であり、患者の意思が救急医療の現場で把握できていない可能性がある。

患者の意思を把握するためには様々な障壁がある。その障壁を乗り越えて複数の臓器提供を行っている医療者は、なぜそれが出来ているのか、どのようにその障壁を乗り越えることが出来たのか聞き取り調査を行うこととした。

B. 研究方法

複数例の臓器提供を行っている病院に勤務する医師、看護師にフォーカスグループインタビューを行った。

臓器提供に関わった時の苦悩や葛藤、臓器提供に関わった時の達成感、医療者自身の臓器提供への認識の変化についてweb会議シス

テムを用いインタビューした。

合計10施設のインタビューを予定しており、今年度は7施設のインタビューを行った。インタビューは録画した上で文字に起こし逐語録を作成した。今後は行動変容のモデルを背景に、逐語録の質的分析を予定している。

C. 研究結果

今年度は以下の施設へのインタビュー調査を行った。聖隷浜松病院、北里大学病院、岡山大学病院、神戸市立医療センター中央市民病院、京都第二赤十字病院、静岡県立こども病院、藤田医科大学病院の7施設。それぞれ看護師と医師と一緒にwebシステムを用いてインタビューを行った。録画動画より文字を起こし逐語録を作成した。

インタビューの印象としては、それぞれの施設で臓器提供を前向きに捉えており、主治医が一人で負担するのではなくチームとして対応できているように感じた。

7施設のインタビュー終了時点で、逐語録の質的分析も開始した。解析を進めるにあたっては、行動変容を促すモデルを参考にすると理論的な解析が出来ると考えた。現在ある

7施設のデータを行動変容のモデルに当てはめて解析をすすめ、不足している情報がないか検討したうえで、残り3施設のインタビューにも取り組む方針とした。

D. 考察

各病院の中心的スタッフである医師、看護師にインタビューを行った。それぞれの病院で臓器提供できたことが前向きな体験として語られた。話を聞いているだけで、心が温まり前向きになれるような話も多く聞かれた。そして、話を聞いた医師と看護師間の信頼関係がどこも強固に感じられ、臓器提供という出来事がチーム力を高めているようにも感じられた。また、それぞれの施設で臓器提供が日常診療の一部になっていると感じられる施設も多かった。

インタビュー時に受けた上記印象はどのような根拠を持っているのか、逐語録の解析から見えてくるのではないかと期待している。

来年度は、行動変容のモデルを参考に逐語録の質的解析をすすめ、必要に応じて残り3施設へのインタビュー調査も考慮している。

臓器提供を繰り返す施設の医療スタッフの話から、臓器提供に関心を持ち、前向きに捉えていく鍵を見出していきたいと考えている。

E. 結論

医療者の臓器提供への関りを、より良いものにしていくためには何が必要なのかを明らかにするため、複数回の臓器提供を経験している施設の医療スタッフを対象としたインタビュー調査をすすめている。インタビューで語られた内容を解析し、臓器提供を前向きに捉えることが出来る要因はどこにあるのか、何が繰り返し臓器提供するモチベーションになっているのか、見出していきたい。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

- 渥美生弘：臓器提供-誰のために行うのか-第47回日本脳神経外傷学会 (24/3/1)
- 渥美生弘：救急集中治療における終末期に対する考え方の成熟が必要である 第57回日本臨床腎移植学会 (24/2/15)
- 渥美生弘：患者の思いに応える 宮城県第15回移植医療推進会議 (24/2/7)
- 渥美生弘：患者の思いに応える 心移植サポート (23/10/28)
- 渥美生弘：共に歩む 小松市民病院講演会 (23/10/12)
- 渥美生弘：患者の思いに応えるために 日本移植会議公開シンポジウム (23/9/30)
- 渥美生弘：ドナーの転院搬送が開始になる 院内コーディネーターの役割の今後 第24回兵庫県臓器提供懇話会 (23/9/29)
- 渥美生弘：急性期終末期医療における代理意思決定支援とは JATCO症例検討会 (23/9/2)
- 渥美生弘：患者の思いに応える 島根県立中央病院 (24/2/21)
- 中安ひとみ：Consider the causes of low organ donation in Japan by the GCS3 registry ISODP 2023 (23/10/19)
- 渥美生弘：脳死・心停止ドナー候補者発生施設での対応 日本看護協会 (23/6/20)

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし